

第1回滑川市総合計画審議会及び 第1回滑川市ひと・まち・産業創生総合戦略策定委員会 議事概要

日時：令和元年11月25日（月） 19：00～20：44
場所：滑川市役所本館3階大会議室

【委員】

役職	氏名	備考
滑川市医師会 会長	伊井 祥	
アルプス農業協同組合 代表理事組合長	伊藤 孝邦	
滑川商工会議所 会頭	今家 英明	
連合富山新川地域協議会滑川ブロック長	浦島 成友	
滑川市小・中学校PTA連合会 会長	大橋 央	
滑川市社会福祉協議会 会長	加田 洋一	
滑川青年会議所 理事長	腰山 卓也	欠席
富山県新川土木センター 所長	酒徳 鋼一	代理出席 茂崎次長
滑川市自治会連合会 会長	澤田 隆之	副会長(副委員長)
市民公募委員	下村 豪徳	
滑川市民生委員児童委員協議会 会長	砂子 良治	
富山県新川農林振興センター 所長	津田 敏	
富山県中部厚生センター 所長	長瀬 博文	
市民公募委員	鍋谷 智子	
富山県私立幼稚園・認定こども園協会 監事	蛭川 徳子	
滑川漁業協同組合代表理事組合長	萩原 金吉	代理出席 倉本参事
滑川市連合婦人会 会長	原 洋子	
滑川市体育協会 会長	八橋 謙二	欠席
富山大学名誉教授	山西 潤一	会長(委員長)
北日本新聞新川支社 支社長	魚津 悟司	総合戦略策定委員
北陸銀行滑川支店 支店長	山川 利道	総合戦略策定委員(欠席)

【幹事】

滑川市副市長	石川 忠志	
滑川市教育長	伊東 眞	
滑川市総務部長	石坂 稔	
滑川市産業民生部長	藤田 博明	
滑川市建設部長	藤名 晴人	
滑川市教育委員会事務局長	上田 博之	

【事務局】 企画政策課

【議題次第】

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 会長（委員長）、副会長（副委員長）の選出
- 5 諮 問
- 6 説明事項
 - (1) 第5次滑川市総合計画及び第2期滑川市ひと・まち・産業（しごと）創生総合戦略の策定方針等について
 - (2) 第4次滑川市総合計画（後期基本計画）の進捗状況について
 - (3) 滑川市ひと・まち・産業（しごと）創生総合戦略の進捗状況について
 - (4) 第2期国総合戦略の方向性について
 - (5) 今後のスケジュールについて
- 7 閉 会

主な発言内容

□市長あいさつ

□会長（委員長）、副会長（副委員長）の選出

事務局：滑川市総合計画審議会条例第4条、滑川市ひと・まち・しごと創生総合戦略策定委員会設置要綱第5条の規定により、会長、副会長（委員長、副委員長）は、1名ずつ置くこととし、委員の互選により選出されることとなっている。

特にご意見がなければ、事務局で案があるので、発表してよろしいか。（異議なし）

総合計画と総合戦略は相互に関連するので、合同で会議を開催することから、審議会会長、策定委員会委員長の両方を務めていただくことになる。副会長についても同様である。

会長には、3月の総合戦略策定委員会の際にも会長を務めていただいた富山大学名誉教授の山西委員、副会長に自治会連合会会長の澤田委員にお願いしたいが、よろしいか。

（異議なしの声あり）

事務局：ご異議なしと認め、山西委員には会長を、澤田委員には副会長をお願いする。

会 長：（あいさつ）

会 長：それでは次第に沿って進める。まず(1)第5次総合計画及び第2期総合戦略の策定方針について、事務局から説明されたい。

□事務局説明(1)（資料1、2）

□説明事項の質疑応答

委 員：ダブルスタンダード（総合計画・総合戦略）の一本化というのは重要なことだと思う。総合計画の策定に関し、市民参加が重要と思うが、12月に予定されて

いるアンケートはどのような内容を予定しているのか。

事務局：前回、10年前に第4次総合計画を策定した際も市民アンケートを実施している。前回アンケートとの比較を行うため、滑川市での居留意向や、施策の満足度・重要度調査、市民参画の方法など

会 長：第4次総合計画の基本構想の中に前回のアンケートが記載されているが、基本的にはこれを踏襲して実施するということか。

事務局：大枠では前回と同様の内容で実施したいと考えている。アンケートの内容はお配りしている第4次総合計画の基本構想14ページに記載されている

委 員：アンケート結果のまちづくりの方向性の設問の中に「医療・福祉が充実した安心して生活できるまち」とあるが、もっと具体的に細かい内容について記載があるのであれば、参考としたい。

事務局：施策の満足度には記載がある。

事務局：補足になるが、アンケート調査は基本構想—今後10年間のまちづくりをどのような方向性で進めていくか—の策定に当たり参考とするため、設問も包括的なものとなっている。そうした意見を踏まえ、具体的な内容については基本計画の中で細かく検討していくことになる。

会 長：続いて(2)(3)の総合計画、総合戦略の進捗状況について、続けて事務局から説明されたい。

□事務局説明(2)、(3) (資料3～5)

□説明事項の質疑応答

委 員：資料5の青丸で32,500と記載のある推計人口は社人研推計とは異なるものなのか。

事務局：人口には2種類あり、1つは5年毎の国勢調査の人口をもとに、その後の転入・転出等の異動を積み上げたものであり、これが32,500人の推計人口。もう1つは従来から管理している住民基本台帳の人口に転入・転出等の異動を積み上げたものであり、これが33,263人となっている。

委 員：そうすると、人口ビジョンを策定したことで、社人研推計を上回る形で推移しているとも言えるのか。

事務局：そのとおり。

委 員：総合戦略のもう1つの課題でもある地域経済の縮小については、こうしたシミュレーションはあるのか。

事務局：地域経済に関しては、資料の説明でもあった「製造品出荷額」を指標として挙げている。

委 員：地域経済の縮小で、なぜ「製造品出荷額」なのか。

事務局：5年前の策定時に議論されたものと思うが、1つには、分かりやすいということもあったと思われる。

委 員：今後もこの指標を継続するのか。

事務局：国の戦略でも、ある程度KPIの見直しを行うということなので、それを踏まえて検討していきたい。

委 員：シミュレーションである程度の（経済の）減が見えないと、KPI を達成してもどれだけの効果があるのか算定しづらいと思う。「危機感」ということなので、どれぐらいの減少の危機感があるのか、そういったシミュレーションがあればと思って（発言した）。

会 長：資料3と4の総合計画と戦略では同じものもあるし、プラスアルファのものもあるが、最初に説明のあったように重複している部分もあるので、統合して総合計画に一本化していくという理解で良いか。

事務局：そのとおり。

会 長：戦略の進捗状況の中で、「要検討」とあるが、達成したから、今後の施策のあり方を見直すものと、進捗しておらず達成困難なため、見直さないといけないものと、同じ検討でも両極端の2つの意味合いがあると思われる。

事務局：ご指摘のとおり。例えば、住宅用太陽光発電については、国の制度の影響もあるが、ある程度普及し、目的は達成したということで今後のあり方を検討するとなっている。一方 IJU ターンや移住・定住雇用に対する企業への支援は、施策としてやりづらい面があるということで、中身の入れ替えも含め検討が必要としている。

会 長：計画期間を合わせるため、戦略を1年延ばすということだが、その場合 KPI はこのままでいくのか。

事務局：要検討となっているものについては、1年延ばす際には考え直さないといけない。

委 員：達成困難が必要な項目が17ある中で、見直しが必要とされている施策が1件もないのはどういうことか。

事務局：施策事態の方向性・目指すところとしては、現在の方向性で良いと考えているが、ご指摘のとおり、現実に達成できていないという状況を踏まえ、やり方に関しては見直しが必要と認識している。

委 員：要検討となっているものは、いつの時点で検討することになるのか。

事務局：達成状況については、3月末の状況で記載されており、これが今年度の施策に反映されているかという点も必ずしもそうならないものもある。少なくとも達成困難となったものについては、施策のやり方も含め、来年度どのような形にするかは考えていく必要がある。

委 員：KPI の全体目標値の状況によって、KPI の達成状況も変わっていくが、目標値はどの時点で見直すものなのか。一番初めに決めたらそのままなのか。それとも達成困難だから、途中で目標を下げるようなこともあるのか。

事務局：総合戦略の目標値については、必要に応じ見直しており、毎年固定するものではないと考えている。ただし、現在の目標が達成困難だから、目標値を下げて達成可能とする、そういった安直なやり方もどうかと考えており、昨年までは、なるべく全体目標値は変えない中で KPI の状況を出して欲しいと、各課にお願いしてきたところ。ただし、仰るとおり、どう見ても目標値がおかしいのではないかとといったものは、本来であれば2年目、3年目に見直しても良かったので

はないかとも考えている。

会 長：それぞれの目標値や達成状況については、各課で検討されていると思うが、達成困難な理由が見えないので、分かる人には分かると思うが、私などは、「財政的に厳しいからなのか。」と推測するが、そういったところも、どういう理由なのか見えてれば、委員の先生方も、「ああ、それならしょうがない。」となるような気がする。

事務局：こちらで把握しきれていない部分もあるので、今年度末の進捗状況の際には、何がどういった理由でだめなのかということもご説明できるようにする。

会 長：数値だけで3とか2とか言われても、中身が分からないので議論しにくいと思われる。

委 員：今、人口が33,000人ということだが、その中で外国人がどれだけおり、そういった方への支援事業はどのようなものがあるのか。

事務局：今年の3月末現在の状況としては、人口が33,236人で、そのうち外国人は402名。2年前の平成29年3月末では305名だったので、100名程度増加している。以前は、国際化・国際交流という施策であったが、これだけ外国人が増えている中で、施策も考えていかないといけない。よく言われるのは生活習慣の違いや、地域にどう溶け込んでいくか。そういう部分が政策課題として、次期計画の中に入ってくるものになると考えている。

会 長：他に質問がなければ、国の第2期総合戦略の方向性について、事務局から説明されたい。

□事務局説明(4) (資料6)

会 長：市の戦略を策定する上でもこういった国の方針を踏まえて策定していくということであったが、何か質問はないか。なければ、事務局から今後のスケジュールについて説明されたい。

□事務局説明(5) (資料1)

会 長：本日はこれにて閉会する。